

お 名 前	性 別	卒業年	小学校	現 住 所
安形 茂樹 <small>しげ き</small>	男 性	昭 3 8 年 (1963)	八名小 富岡教場	新城市

## 「 小学校時代の思い出あれこれ 」

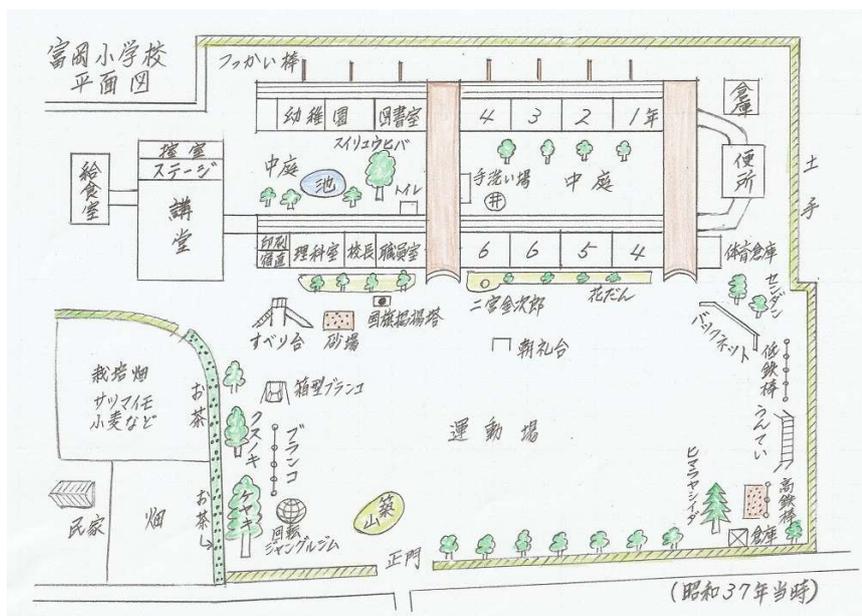
私たちが6年生になった昭和37年4月4日、富岡小学校と清水野小学校の2校は統合され、八名小学校となった。記録では八名中学校校庭で閉校式、開校式が行われたとあるが、なぜか記憶に全くない。感動や感慨がなかったためだろうか。校舎は卒業式までには完成すると聞いていたが、間に合わなかった。そのため、富岡教場、清水野教場に分かれての授業が卒業まで続いた。新校舎に下級生が入ったのは6月で、結果として私たちは、名目だけの第1回生となった。



昭和37.6.20 八名小建設起工式

それはともかく、富岡教場の児童数は55人で、6年生になって初めて2クラスに分かれた。富岡小学校へ入学以来ずっと1クラスだったので、すし詰め教室に慣れていて、2クラスになるのを「なんで今さら？」と思った。調べてみると、児童数の定数が50人になったのは昭和34年からで、それ以後も国の編制基準を超えた人数のすし詰め教室は多かったという。戦後のベビーブーム期（1949年生まれの269万人あまりが最多）の児童数増加に、校舎や教員の確保が追いつかなかったということのようだ。

当時の富岡小学校は危険校舎の判定を受けていて、校舎の裏（北側）に支え棒が何本かあった。裏校舎の西には幼稚園が併設され、前校舎との間に池のある庭があり、スイリュウヒバの木があった。この木は現在、富岡ふるさと会館のグラウンド西端に移植され、大木となって当時を偲ばせている。



昭和37年当時の富岡小平面図（回想による）

## 【学校行事】

学校行事では、運動会と学芸会が一番大きな行事だった。運動会でとりわけ力が入ったのは帽子とりだった。赤白帽をできるだけ頭にきつく縫い付けてもらって、それを水で濡らし、簡単に取られないようにして戦った。それでも自分は背が小さかったこともあり、早く取られて悔しい思いをした。通学団リレーでは、順位によって賞品（ノートや鉛筆）が違ったので、足の速い選手の子がうらやましかった。

学芸会は猿飛佐助の劇で、なぜか弥次さん喜多さんのどちらかの役で、当時の人気テレビ番組の「てなもんや三度笠」で見た、平参平がヒザをカクンカクンさせて歩き、ひざを手でたたくとピンと伸びるといふ人気のギャグをまねして、笑ってもらった覚えがある。

他の行事では、マラソン大会があった。高学年は、学校から今の県道の直線路を使って中村の夏目俊昭君の家辺りで折り返すコースだった。印象に残っているのは、大会当日、女子が白い紙を小さく丸めて口にくわえてスタートしたことだ。「何で？」と不思議に思った。できるだけ鼻で息をするように意図したものだったようだが、ゴールした時には誰も口にくわえていなかった。なぜ女子だけそんな指導をしたのか、男子はだれも紙をくわえた子はいなかった。今でも不思議に思うことだ。

対外的には陸上大会があり、背が高かった大場俊秀君が1m30cmを跳んで優勝したことを覚えている。彼は残念ながら豊橋へ転校した。ソフトボール大会、ポートボールなどの大会もあった。



昭和36年当時の運動会の様子

## 【テレビ放送】

4年生の昭和35年頃だったと思うが、理科室にテレビが置かれていた。その頃は、やっと家庭にテレビが入り始めた頃で、まだ我が家にはテレビがなかった。大家さんの家に近所の子どもたちが集まり、怪傑ハリマオや赤胴鈴之助、まぼろし探偵、風小僧、鉄人28号などを見せてもらった。昭和34年、皇太子と美智子様（上皇ご夫妻）が馬車に乗られた結婚パレードもよく覚えている。夜は近くのクリーニング屋へ父親といっしょに、力道山のプロレスを見に行った。これは子どもより大人の方が多かった。学校のテレビを授業で見た記憶は残念ながら全くない。授業後に小学校へ遊びに行った時、大相撲を見たことはよく覚えている。若乃花、栃錦、朝潮、大鵬、柏戸などの力士が出ていたように思う。

## 【学校での遊び】

この頃の学校での遊びは、陣取りや宝取り、元大中小、馬とび、おしくらまんじゅうなどだったが、昼放課になるとみんな外に出てよく遊んだ。自分は相撲が好きで、短い放課には友達を誘ってよく砂場で相撲を取ったことを覚えている。当時人気だったのは、「巨人、大鵬、卵焼き」と流行語が一世を風靡したように、野球と大相撲が人気のスポーツだった。ご多分にもれず、私は巨人ファンで長島選手があこがれだった。5・6年生の時は、ソフトボールでピッチャーをやらされたが、本当はサードをやりたかった。大鵬はそれほどでもなかったが若乃花は大好きだった。小さな体で大きな力士を投げ飛ばすのがたまらなかった。

## 【家での遊び】

自分がやったことがある遊び

男女の場合	一歩三歩，おにごっこ，かくれんぼ，カンけり，ゴム跳び
男子の場合	チャンバラごっこ，パンゴウ（メンコ），クギとり，竹馬 コマ回し，たこ揚げ，鉄砲（紙，スギ，水），魚とり

近所の子と遊ぶ場合は、いっしょに入る子に合わせた遊びをした。上級生が気を遣って、小さい子や女の子ができる遊びをするのが自然だった。パンゴウは、相手のパンゴウをひっくり返すと本当にもらえるルールだったので、簡単に取りられないようにパンゴウにロウを塗って重くしたりした。それでもお互いに全部取られるようなことはなかった。ほどほどのところで気遣ってやっていたように思う。ビー玉も同様だった。



昭32年頃 チャンバラごっこ 安形英二さん提供

## 【映画の楽しみ】

低学年の頃、夏の夜にバックネットに白布を張って映画の上映をしたことがあった。テレビがなかった当時、映画は楽しみの一つで富岡公民館でもよく上映され、いつも満員の盛況だった。東映映画の時代劇が一番人気で、中村錦之助、東千代之助、大友柳太朗、大川橋蔵が看板スターだった。勸善懲悪の痛快な時代劇で、悪者をやっつける場面では拍手が沸き起こった。ところが、バックネットの映画は「東海道四谷怪談」だった。ストーリーはよく分からなかったが、恨みを込めて、池の中からお岩さんが醜い形相で現れる場面は本当に怖かった。小学校から帰る時、怖くて怖くて親父の背中にしがみついて帰ったことを今でもよく覚えている。

## 【家の手伝い】

その頃は、小学生でも家の手伝いをするのは当たり前で、農繁休みもあった。田植えや稲刈りの手伝いだけでなく、田んぼの株取り、麦ふみ、イモ掘りなど何でも手伝った。それでも嫌いな仕事があった。タバコの収穫だった。

葉タバコの栽培は1年がかりで、冬の堆肥づくりから始まり、床づくり、種まき、苗づくり、畑へ移植と続き、7月頃の暑い時期に収穫となる。畑に入ると大きなタバコの葉が茂り、黄色く色づいた葉を1枚1枚手で取り、リヤカーまで運んだ。嫌だったのは葉のヤニだった。ねちゃねちゃして手や顔について気持ちが悪かった。その後の作業も大変で、2mぐらいの縄の縄目に1枚1枚結びつけ、それを1本1本乾燥室（小屋）につるしていく。乾燥室は赤土の厚い壁で造られ、普通の家ぐらいの高さがあった。薪を燃やして乾燥するので、父親は夜も寝ずに火を炊き続けた。後にコークスも使うようになったが、さぞ大変なことだったと思う。印象に残っているのは焚き口でジャガイモを焼いてくれて、ホクホクでおいしかったことだ。タバコの作業はその後も続き、乾燥を終えた葉を降ろし、おおえという部屋で1枚1枚等級分けをしてまとめる。それでやっと出荷となった。



昭和37年頃のタバコ栽培の様子

とりとめのない思い出になったが、学校行事や課外、遊び、給食、授業のことなどそれぞれに思い出は異なるので、他の同級生や先輩方の思い出話を参考にしたい。

令和6年3月 記